

黒部市吉田科学館に勤務する長谷川憲二さんは、科学館の名物ツアー「ジオ&みずはくツアー」の企画立案から運営、その日のガイドまでを一挙に担当。

退職を機に学び始めた豊富な知識を活かし、県内外から訪れるお客様へ、黒部の水の豊かさを発信し続けています。

黒部市吉田科学館
長谷川 憲二さん



Q. 「ジオ&みずはくツアー」の魅力は？

A. 黒部川扇状地の成り立ちと、水・自然・歴史に関わる見どころをバスで巡り、地域の豊かさを体感できるフィールドツアーとなっています。2008年からコロナ禍でも規模を縮小して継続開催し、年内に90回を迎えます。6月には「扇状地のダイナミックな水循環」をテーマに、杉沢の沢スギや生地の清水といったスポットを参加者と訪れ、学びを深めてきました。

私をご紹介したいものは、入善町の海岸沿いの園家山キャンプ場にあります。キャンプ場は全て砂丘なのは、ご存知ですよね。ここで、皆さんにクイズです。こちらの透明な円筒状のものは、一体何でしょうか？



Q. これは何でしょう？⇒

正解は、「地下水水位標柱」というものです。地下水位が、標柱の水面と連動していることから、地下水のありがたみがお分かりいただけるのでは？キャンプ場の炊事場では、地下70mから湧く天然水が贅沢にも流しっぱなしになっています。その取水バルブを閉めると…標柱の水面がみるみる上がり、開くと…たちまち下がるので、よく「ワーッ」と歓声が上がります。水の温度は、年中11℃くらいで、夏でも手を浸すのは30秒が限度というくらいに冷たいです。一口飲むと、軟水のまろやかさから、「おいしい」という声が聞かれます。えっ？お水は、もちろん無料ですよ。「黒部川扇状地湧水群」として、昭和60年に環境省の「名水百選」にも選定されています。

Q. ガイドとして伝えたい思いは？

A. 大学卒業と同時に、地元企業に就職するため県外から移住してきました。サラリーマン時代は、仕事一辺倒。定年退職を機に、新川広域圏水博物館の「地域学芸員」になりました。若い頃は「お水がおいしい」とは思いましたが、なぜそうなのか知ることはありませんでした。

この地域には立山連峰があり、「滝」ともいわれるほど急流な黒部川もあり、ふと通り過ぎるいつもの風景にも、大自然と共に生きる人々の暮らしやその歴史文化が息づいています。

ここ下新川海岸は、日本屈指の浸食海岸です。富山の空が晴れて穏やかでも、北方に強い低気圧があると寄り回り波が発生し、海は一気に表情を変えます。あちらには、波の力で崩れた波消ブロック、こちらには整然と積まれたブロック。その対比にも、海の脅威とそれに立ち向かう人間の姿が見てとれます。海岸沿いに車を走らせると、ブロックの製造現場にも遭遇します。重量があるので、運搬コストを下げるためですね。コンクリートを流す型にも様々あり、どの形がよいか試行錯誤しているのでしょう。

ところで、どうして富山はこんなにお水がおいしいのか、私はいつも皆さんに聞くんですよ。なぜでしょう？……それは、「氷河の一滴」が入っているから。本当にそうかどうかは、実際にお越しいただき、お水を味わって感じてください。あなたの一番は、どのお水ですか？

【地下水の守り人】地域に根差した地下水保全活動を促進するため
平成24年度より養成・登録を開始。138人が登録されている。